

食品ロスの実態調査結果

1. 調査の概要

日時：令和元年8月28日（水）

場所：リサイクルプラザ（南ストックヤード）

調査対象ごみ：一般ごみ

- 住居形態に着目して市内3地区（新興住宅、既存市街地、集合住宅）の各地区から40～150袋程度をサンプリングした。
- 分類作業量は各地区100kg程度とした。
- サンプリング量と分類作業量は表1のとおり。

表1 サンプリング量及び分類作業量

	サンプリング量（kg）	分類作業量（kg）
新興住宅	393.98	103.87
既存市街地	127.56	104.65
集合住宅	96.61	96.61
合計	618.15	305.13

2. 調査結果

- 表2の分類表にしたがって分類したごみの組成を表3、図1に示す。
- 厨芥類については、川口市全体では約34%、集合住宅では約38%、既存市街地では約32%、新興住宅では約28%であった。
- 食品ロス（直接廃棄と食べ残しの合計）については、川口市全体では約17%、集合住宅では約19%、新興住宅では約16%、既存市街地では約14%であった。
- 平成30年度の家庭系ごみの処理実績99,893tから推計すると、約34,000tの厨芥類（食品廃棄物）、約17,000tの食品ロスが発生している。

（計算式）

厨芥類： $99,893 \times 0.344 = 34,363 \div 34,000$

食品ロス： $99,893 \times 0.1723 = 17,211 \div 17,000$

表2 分類表

厨芥類	調理くず※
	直接廃棄（手つかず100%残存）
	直接廃棄（手つかず50%以上残存）
	直接廃棄（手つかず50%未満残存）
	食べ残し
	その他（分類不能等）
厨芥類以外	紙類、プラスチック類等の厨芥類以外

※ 過剰切除については、ごみ袋の開袋調査では把握が困難であるため調理くずに含める。

表3 各地区と川口市全体（加重平均）の割合

		新興住宅		既存市街地		集合住宅		川口市全体（加重平均）	
		調査ごみ量に対する割合	厨芥類の合計に対する割合	調査ごみ量に対する割合	厨芥類の合計に対する割合	調査ごみ量に対する割合	厨芥類の合計に対する割合	調査ごみ量に対する割合	厨芥類の合計に対する割合
厨芥類	調理くず	9.17	33.00	14.99	46.46	13.74	36.29	13.01	37.81
	直接廃棄（100%残存）	6.71	24.13	6.30	19.51	4.33	11.43	5.29	16.02
	直接廃棄（50%残存以上）	2.35	8.45	2.32	7.20	3.89	10.28	3.20	9.20
	直接廃棄（50%残存未満）	0.64	2.29	0.43	1.33	1.20	3.17	0.91	2.57
	食べ残し	5.99	21.54	5.14	15.93	9.63	25.43	7.84	22.47
	その他（分類不能等）	2.95	10.60	3.09	9.56	5.07	13.4	4.17	11.28
食品ロス合計（直接廃棄＋食べ残し）		15.68	56.41	14.19	43.97	19.05	50.31	17.23	50.26
厨芥類値合計		27.80	100.00	32.27	100.00	37.85	100.00	34.40	100.00
厨芥類以外		70.62	—	67.49	—	62.01	—	65.12	—
全調査項目合計		98.42	—	99.76	—	99.87	—	99.53	—
流出水分		1.58	—	0.24	—	0.13	—	0.47	—
調査ごみ量		100.00	—	100.00	—	100.00	—	100.00	—

※ 端数処理の関係で内数と合計が一致しない場合がある。

※ 加重平均は、集合住宅の割合を0.5586（平成27年度国勢調査 住居の建て方 より算出）、残りの0.4414を新興住宅と既存市街地で等分して算出した。

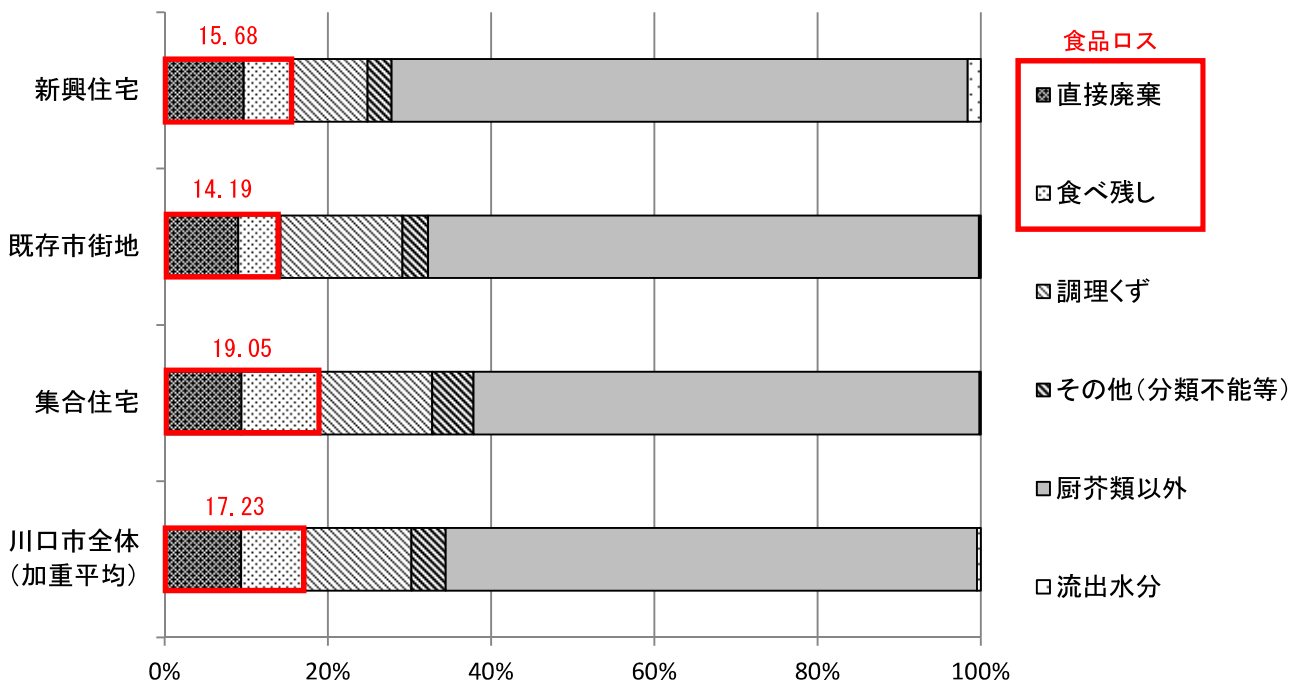


図1 各地区・合計・川口市全体の組成

3. 写真



サンプリングしたごみ



分類前の計量



分類作業



食べ残し



調理くず



直接廃棄（新興住宅）



直接廃棄（既存市街地）



直接廃棄（集合住宅）